

ELISA における使用例

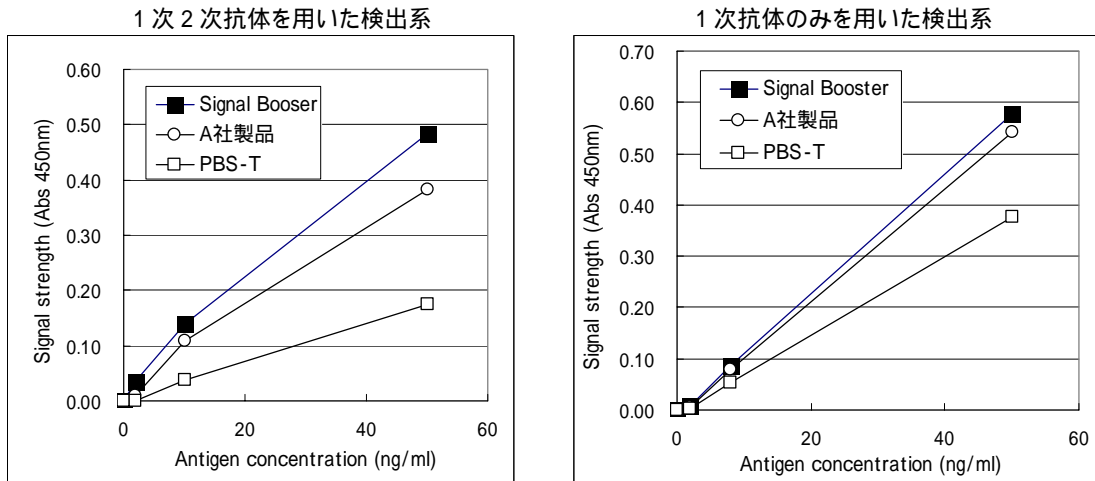
使用例 1

ELISA のアッセイ系： HBsAg S 抗原活性検出用の抗体サンドイッチ ELISA

実験方法： 96 穴プレートに抗体 (anti-HBsAg antibody, Rabbit polyclonal) を固相化し、ブロッキング、洗浄を行った。各ウェルに抗原サンプル (HBsAg-XT, Cat #:BCL-AG-002) を添加し、反応後、1 次抗体 (anti-HBsAg antibody, Mouse monoclonal) を加え、更に反応させた。ウェルを洗浄後、2 次抗体 (Anti-Mouse IgG, goat polyclonal, HRP-labeled) を添加し、TMB により発色させ、450nm の波長を測定した。1 次、2 次抗体希釈時に、Signal booster の Solution A, Solution B、又は A 社製品の Solution 1, Solution 2 で希釈し、抗原抗体反応を行った。なお、PBS-T (0.1% Tween-20) 群では何れも PBS-T で希釈した。

本実験では 1 次抗体を HRP 標識した実験系でも検討したが、その場合は、1 次抗体希釈時に、Signal booster の Solution B, A 社製品の Solution 2、又は PBS-T で希釈し、抗原抗体反応を行った。

結果： 1 次 2 次抗体を用いる検出系、及び 1 次抗体のみを用いる検出系、何れにおいても、Signal Booster は PBS-T を用いた場合に比べ遥かに高いシグナル強度を示した。
Signal Booster は A 社製品より優れたシグナル強度を示した。



使用例 2

ELISA のアッセイ系： 抗 HBsAg 抗体検出用の抗原サンドイッチ ELISA

実験方法： 96 穴プレートに HBsAg 抗原 (HBsAg-XT, Cat #:BCL-AG-002) を固相化し、ブロッキング、洗浄を行った。各ウェルに抗体サンプル (Anti-HBsAg antibody, mouse monoclonal) を添加し、反応後、洗浄した。これにアルカリリフォスファターゼ標識抗原 (AP-BNC-ZZ) を加え、更に反応させた。ウェルを洗浄後に p-NPP により発色させ、405nm の波長を測定した。固相化抗原と抗体との反応時には抗体を Signal Booster の Solution A、又は A 社製品の Solution 1 で希釈し、標識抗原との反応時には Signal Booster の Solution B、又は A 社製品の Solution 2 で希釈し、抗原抗体反応を行った。なお、両希釈を PBS-T で希釈した群も設けた。

結果： Signal Booster は PBS-T を用いた場合に比べ遥かに高いシグナル強度を示した。
Signal Booster は A 社製品よりわずかに優れたシグナル強度を示した。

